

国際チョルノービリ（チェルノブイリ）災害想起デー

ウクライナでは

4月26日は国連が定めるメモリアルデー「国際チョルノービリ災害想起デー」でした。ウクライナ北部にある**チョルノービリ（チェルノブイリ）原発事故**から39年を迎えた26日、原発敷地内で犠牲者を追悼する式典が行われました。ロシアの侵攻が続く中、今年2月には事故があった原子炉を覆うシェルターが攻撃を受けたばかり。式典出席者らは「原発の安全に対する脅威だ」と危機感を示していました。（共同通信 NEWS 2025. 04. 27 より）



日本・広島では

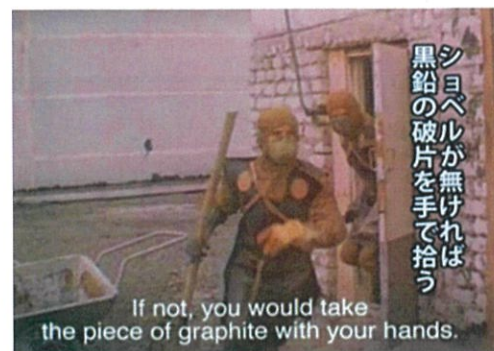
4月26日、脱原発などを訴える広島県原水禁＝原水爆禁止広島県協議会のメンバーや、広島県被団協の箕牧智之さんなどおよそ40人が広島市の平和公園で座り込みを行いました。広島市中区にある平和公園の原爆慰霊碑の前で、「**核と人類は共存できない**」などと書かれた横断幕を掲げながらおよそ30分間、座り込みました。（NHK NEWS 2025. 04. 27 より）



平安女学院高校では

5月7日、高校3年生の「総合的な探求の時間」の中で、チェルノブイリ原発事故に関するドキュメンタリー「* サクリファイス」を視聴しました。震災と人権というテーマについて、日本でおきた福島第一原子力発電所事故の前に、ヨーロッパ中を危機感で包んだ大事故の様子を学びました。「処理作業者の苦悩や、原子炉を覆った石棺の建設後も廃炉にかかる長い年月を考えると、**政治とエネルギー問題の間に無視できない大きな矛盾がある**ことがわかった」という感想がありました。

*ヴラディーミル・チェルトコフ作品（2003年）著作本「チェルノブイリの犯罪」（2015年）もオススメ



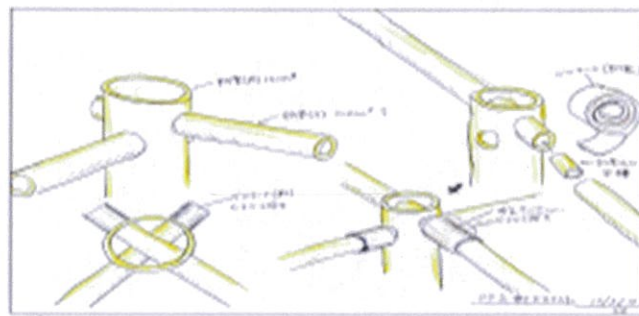
関西万博2025にみる！

「行動する建築家 坂 茂」の パビリオンを見よう！

先月 4 月 13 日から大阪・舞洲で開催されている「関西万博 2025」。さまざまなパビリオンがひしめくなかで、ひとときユニークな球体が目を引くのが「BLUE OCEAN DOME」であり、建築家 坂茂 (ばん しげる)さんの基本設計によるものである。

出展する特定非営利活動法人ゼリ・ジャパンは、2019 年の G20 大阪サミットで発表された海洋プラスチックごみによる追加的な汚染を「50 年までにゼロにする」目標を掲げているため、パビリオン本体は、日本の竹と炭素繊維強化プラスチック(CFRP)、紙管の 3 つの素材を構造物材に採用している。持続可能な社会の実現という課題解決を体現するよう素材や設計にも高い技術が用いられている。

さて、このパビリオンを設計した坂茂さんについては、中学生のみなさんには「行動する建築家」(社会のためにできること)で、知っている人もいるかもしれない。坂さんは、2011 年3月 11 日に発生した東日本大震災の被災地の避難所を訪れた際、避難所はプライバシーの配慮がされにくく、精神的に疲れている人たちの姿を見て、紙管を使った間仕切りシステムを考案したことで知られている。それ以降も「建築家として何ができるか。」と自らに問いかけながら、世界各地の被災地で支援活動に取り組み、世界中で、避難生活を考えた仮設住宅や教会、学校などを作りに尽力されている。



↑ 左から、竹の集成材、炭素繊維強化プラスチック / CFRP、紙管

女川の多層仮設住宅 (2011 集合住宅)

町に十分な平地がなく十分な数の仮設住宅が建設できない町長の悩みから考案された集合住宅。

海上輸送用コンテナを、市松模様に組み、コンテナとコンテナの間のオープンな空間に全面ガラスを入れ、開放的なLDKをつくった

